

ふりがな 氏名	ますかわ さとる 榊川 知	職名	准教授
取得学位	学士(国語)	学会での受賞歴	
主な担当科目	特別活動の理論と方法、教職実践演習、教師論、生徒指導論、進路指導論、国語科教育法、教育内容演習、小学校教育実習指導		
所属学会	日本国語教育学会、日本生徒指導学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
あま市管理職研究会	平成 29 年 6 月 21 日	あま市管理職研修会において、あま市の小中学校で実施されることとなった「2 学期制」について、自らの体験を踏まえ、その有効性と課題について話した。
ピクトグラムを用いた学生が行うSDGsの取り組み	令和 4 年 1 月 7 日	瑞穂警察署よりの依頼を受け、ゼミ活動後の時間でSDGs(持続可能な開発目標)及びピクトグラムについての学びを深めた。その中で、17の目標から「住み続けられるまちづくりを」をテーマに、「運転席からの死角」を子どもたちに知らせるピクトグラムを作成することに決めた。「死角」をどう伝えるのかに苦労した。約2か月をかけて制作した作品は路上ステッカーとして利用されることとなり、名古屋市立汐路小学校で引き渡し式、校門内の通路への埋め込み作業、児童との交流が行われた。活動の様子は、1月12日に名古屋テレビ報道番組「アップ！」で取り上げられた。

◆ 研究業績

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文	『教員免許状更新講習の理解を深めるための教育・保育の論点ガイド No.3』	共	平成 30 年 7 月	名古屋女子大学文学部 児童教育学科編	『今 求められる教師とは 一各自治体の教師像から一』 小学校教員採用選考試験において学生が主に受験する自治体 12 自治体(愛知県、名古屋市、三重県、岐阜県、静岡県、浜松市、石川県、川崎市、横浜市、神奈川県、東京都、千葉県)について、各自治体が求める教師像を取り上げ分析した。各自治体の掲げる教師像を、中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(2006 年)の時代性 2 分類「いつの時代にも求められる資質能力」(5 観点)と「今後特に求められる資質能力」(3 観点)に沿っ

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文					て分類した。その結果、第一に、「教育者としての使命感、子どもに対する教育的愛情を持ち続ける教師」、第二に、「教育の専門家として専門性や実践的指導力の向上に向けて学び続ける教師」、第三に、「チーム学校の一員として、組織的・協働的に新たな教育課題の解決に取り組む教師」の 3 つの教師像を導き出すことができた。
著 書	<p>「児童教育論集第1号 平成29年度」</p> <p>「保育者・教育者を目指す学生のための 自習ガイドブック」</p>	<p>共</p> <p>共</p>	<p>平成 29 年 10 月</p> <p>平成 31 年 4 月</p>	<p>三恵社</p> <p>三恵社</p>	<p>第 2 部 教科教育編「文法論的文章論の立場からの教材研究 吉野弘『夕焼け』</p> <p>「国語の学習は言葉の学習である。」と言われる。人は、言葉を学び、言葉によって生活している。その言葉の役割は意思の相互交流と思考・認識の深化、文化の継承・創造にある。改訂学習指導要領国語科における「言葉による見方・考え方を働かせるための言語活動」をより充実させるためには文法力の強化が何より求められる。その手立てとして、詩『夕焼け』について、文法論的文章論の立場から教材分析を行った。接続論によって文章展開の流れを辿り、連鎖論によって全体の結構を把握し、統括論によって文章としての統一と完結とを解説し、教師としての文法力の重要性を強調した。</p> <p>第 2 部 練習問題と参考書 第 1 章 国語 第 1 節 漢字 (基礎/実践)、第 2 節 語彙・語句 (基礎/実践)、第 3 節 文法・敬語 (基礎/実践)、第 4 節 文学史 (基礎/実践)、第 6 章 論作文 第 1 節 原稿用紙の遣い方・推敲 (基礎/実践)、第 2 節 表記のしかた (基礎/実践) 第 3 節 教育論文を書こう (基礎/実践) を担当した。 執筆に当たっては、基礎編では</p>

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
著 書	「保育者・教育者を指す学生のための 自習ガイドブック 第2版」	共	令和2年 5月	三恵社	<p>保育現場・教育現場で役立つ基礎的な学力の習得を旨とした。実践編では、就職採用試験に合格するための学力の習得を旨とした。特に、自己評価に基づく自己学習を進めるための参考書を提示することで学びの継続をねらった。</p> <p>昨年度執筆した第1版の体裁変更に伴い、再度担当分野について精査し、加除訂正を行った。「第1章 国語」の「漢字」においては、送り仮名を意識させるようにした。「語彙・語句」においては、類義語に変更を加えた。「文法・敬語」においては、5種類の敬語を意識した内容とした。「文学史」においては、冒頭文を学びの対象とした。</p> <p>さらに、参考文献の精査も行き、加除訂正を加え、学生自身の自己学習をさらに進めやすくした。</p>